

18歳
成人



成美成彦の
なるほど!

テーマ ローマ字表記

1 歴史を知る ▶▶▶ 2 今を知る ▶▶▶ 3 話し合う

日本語の表記方法の一つであるローマ字。これまでどんな役割を果たし、これからどう活用されていくのでしょうか。日本語研究者で白百合女子大文学部教授の常盤智子さんと、文化庁国語課の主任国語調査官、武田康宏さんに話を聞きました。

統一で不便さ軽減期待

外国人の理解の助け



常盤智子さん
白百合女子大
文学部教授

私の研究分野は明治時代の日本語です。意外に思われるかもしれませんが、ローマ字は、平仮名やカタカナ、漢字と同様、日本語の重要な研究資料です。その理由は、「ある時代に、その日本語がどのように発音されていたか」を記録している側面もあるからです。

例えば、現代の私たちが「東京」という漢字を見ても、明治時代の人たちがどう発音していたかはわかりません。しかし、東京を「TOKYO」とローマ字で記した明治時代の資料があり、「トウケイ」と発音することがあったと推測できました。

このほかにも、「言語」を「ゲンゴ」のほかに、「ゴング」や「ゲンギョ」と発音していたことなども、資料からわかりました。現代と発音が異なっている言葉は、ローマ字で記された資

料が研究の決め手になることがあるのです。明治時代のローマ字資料の多くは、来日した外国人の宣教師や外交官、商人といった人たちが残しました。外国人とローマ字が密接に関わっているのは現代も同じです。

例えば、道路や駅の案内板にローマ字が併記されていなくても、私たち日本人の多くはさほど困らないでしょう。しかし、漢字や平仮名を読めない外国人にとって、ローマ字による情報提供は大きな助けになっています。

ローマ字の表記方法は長年、訓令式が原則とされてきました。しかし社会では、

訓令式やヘボン式などの表記が混在しているのが実情です。例えば、ローマ字で地名や施設名を打ち込み、インターネットで検索しても、うまく情報が得られない恐れがあります。

今年度中には、ローマ字の表記ルールを定める内閣告示の改定が予定されています。表記方法が統一されれば、不便の解消が期待できるでしょう。

案内板やウェブサイトのローマ字表記を改めるには時間も費用もかかります。表記の統一は緩やかに進んでいくかもしれませんが、ローマ字が今後も人々の役に立ち、親しまれるものであってほしいと思います。

多種多様「正解」迷う



武田康宏さん
文化庁国語課
主任国語調査官

に行う「国語に関する世論調査」では、2020〜23年度に4年連続でローマ字について尋ねています。

これらの調査結果を詳しく見ると、確かに多種多様な表記が社会で使われていることがわかります。

例えば「抹茶」をローマ字でどう表記するかを聞いたところ、「matcha」(32・4%)が、「maccha」(30・3%)や、「roatta」(23・6%)を上回りました。4番目に多かったのは「maccya」(12・1%)で、表記のバリエ

ーションの多さに驚かされました。

明治・大正時代や終戦直後には、漢字などを廃止して文章をすべてローマ字で記そうという動きがあり、ローマ字で書かれた書籍も出版されました。

しかし現代は、「普段、ローマ字を使うことはない」と感じている方も多いのではないのでしょうか。

実際、22年度の世論調査で「日本語をローマ字で書き表すことがあるか」を聞いたところ、「ない」が71・4%に上りました。「ある」と答えた人でも、「一つの言葉や名前くらいの長さまで」が88・4%を占め、文章の一部や全体をローマ

字で書く人はごく少数でした。

では、ローマ字は役割を終えようとしているかというと、そんなことはありません。日本語を母語としていない人に、人名や地名などの情報を伝える上でローマ字は欠かせないものです。

日本人にとっても、情報端末の「ローマ字入力」の形で、ローマ字の仕組みが広く親しまれています。21年度の調査では、ローマ字入力を「よく使う」「時々使う」と回答した人は、合わせて半数以上いました。ローマ字は将来も、日本語を表記する方法の一つとして活用されていくのではないのでしょうか。

*成美と成彦に学んでほしいテーマを募集しています。



成美の気づき

・ローマ字を手がかりに、昔の日本語の発音を推測できる
・表記方法の統一で、不便の解消が期待できる

*「ローマ字表記」は古郡天が担当しました。